

令和元年度 研究主題

未来を「そうぞう」する子ども

【研究開発課題】

希望に満ち溢れた明るい未来を「想像」し、そのような未来の「創造」に向けて、探究的にアプローチできる資質・能力を備える子どもたちの育成に向けた新教科「未来そうぞう科」を核とする教育課程に関する研究開発

2020年 1月17日 研究開発学校研究協議会

大阪教育大学附属平野小学校

研究開発学校としての使命



10年後の未来の教育への挑戦

本校の子どもたちが新しい未来を切り拓き、生き抜くために
未来の子どもたちがずっと先の未来を『そうぞう』できるように

AI化

今ある仕事
なくなる？

自然災害の増加？

人とコミュニケーションを
とらなくなる…

AIが感情をもつら、
支配される？

子どもたちが社会に出る **10年後** **日本は？世界は？**



SDGs

シンギュラリティ
(技術的特異点)

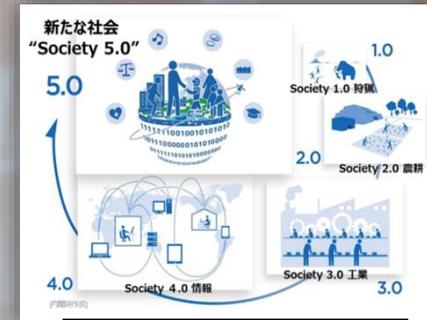


エシカル消費

生き延びる力
educatin 2030
(OECD)



グローバル・コンピテンス
(OECD)



Society 5.0

未来を『そうぞう』する子ども

どんな状況においても、共に**よりよい未来**を
そうぞう（想像・創造）しようと
「主体的実践力」「協働的実践力」「そうぞう的実践力」
を発揮し自分、集団、社会、自然などに対して
多角的・多面的にアプローチし続けることができる子ども



①未来を『そうぞう』する子ども に必要な3つの資質・能力

よりよい未来をつくるために、アプローチし続ける中で、
新たに意味や価値を見出すことができる力

主体的
実践力

そうぞう的
実践力

協働的
実践力

対象に対して主体的、自律的
にアプローチすることができる力

多様な集団の中においても、
積極的に関わり協働的に
アプローチすることができる力

研究主題
未来をそうぞうする子ども

動画による本校の取り組み

新教科「未来そうぞう科」とは？

- **1～6年生を対象**
- **3つの資質・能力の育成を目的**
(主体的実践力 協働的実践力 そうぞう的実践力)

- **3つを
合わせた教科**

生活

総合的な学習の時間
(70～105時間)

特別活動 (35時間)

新教科「未来そうぞう科」の時間数

| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 特 | 34 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| 生 | 102 | 105 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総 | 0 | 0 | 70 | 70 | 70 | 70 |
| 棟 | 136 | 140 | 105 | 105 | 105 | 105 |

通常授業 (45分 × 週2,3)

朝のモジュール (8:40~8:55の15分 × 週5)

新教科「未来そうぞう科」の目標

未来そうぞう科目目標

「自分自身」「集団・人間関係」「社会・自然」に対して、
実践的・体験的な活動を通して、
未来そうぞう科の見方・考え方を働かせて、
どんな状況においても希望をもち、共によりより未来を
そうぞうしようとするための
「主体的実践力」「協働的実践力」「そうぞう的実践力」
を育成することを目指す。

新教科「未来そうぞう科」の見方・考え方

未来そうぞう科 見方・考え方

イメージ・クリエイトの往還を通して、
多角的・多面的にアプローチし、
過去・現在・未来と関連づけながら、
よりよい未来の実現を目指そうとすること。

未来そうぞう科の3領域

C領域

社会や自然



6年生
『校庭キャンプde発見』

A領域
自分自身



4年生
『好きをスイッチ』

B領域
集団や人間関係



1年生と幼稚園の子
『あこがれのヒーロー』

互いに働きかけたり、
既存の教科も含めて、
一体的に補い合う

3つの研究の視点

- (1) 未来そうぞう科の**カリキュラム作り**と**学習指導要領の試案づくり**
- (2) 3つの資質・能力「主体的実践力」「協働的実践力」「そうぞう的実践力」の**評価方法の確立**
- (3) **既存の教科**においても、3つの資質・能力の育成を目指す

4年間と研究の成果と課題

第1年次

第2年次

第3年次

第4年次

| | | | | |
|--------|---|--|--|--|
| カリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> ○ 6学年×3領域=18実践 ▲ コンテンツベース ▲ 3つ領域の対象例のあいまいさ ▲ 発達段階を踏まえた対象(内容)の未検討 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 未来そうぞう3部会の組織化 ○ 発達段階に考慮したカリキュラム ○ 領域ごとに対象例の見直し ▲ 領域ごとに系統性 ▲ 教科書の是非 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 領域毎の系統性のあるカリキュラムづくり ▲ 柔軟性と汎用性を兼ね備えたカリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> ・ 柔軟なカリキュラムとして、対象例を示す ・ 過去の54実践を踏まえ、最終年度としての計画・実施カリキュラムの提案 ・ 学習指導要領の提案 |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 未来ノートの活用 ▲ 3つの実践力の共通理解が不十分 ▲ 発達段階を踏まえた資質・能力の未検討 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 資質・能力表の7回改訂 ○ 主体的実践力や協働的実践力は適切に評価 ▲ 創造的実践力の見取り方に差異がある。 → 3つの実践力の構造化の必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践力の構造化 ○ 創造的実践力の再定義 ○ 評価の6観点と具体的な評価方法の検討 ▲ 自己評価を促す手立ての確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 創造的実践力→そうぞう的力 ・ 自己評価を促す評価方法の運用・評価の観点6観点→3観点へ変更, 実施・運用 |
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 3つの実践力を9つの力に細分化 ▲ 未来×教科として、授業提案できていない ▲ 9つの力のうち、教科によって定義が異なる(例:洞察力, 発想力, 表現力) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科の特性(強み)いかして、3つの実践力へアプローチ ▲ 教科が3つの実践力を育成できるなら、未来そうぞう科はいらない。教科目線の考え。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科横断的な学習にアプローチ(理科, 社会科, 家庭科) ▲ 教科においても、未来そうぞう科の資質・能力の育成を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科がそうぞう的実践力を発揮している姿を想定 |

② 未来そうぞう科のカリキュラム ～令和元年 計画実施カリキュラム～

6年間で系統的に
資質・能力を育む

| | 自分自身 →自己肯定感の高まり | 集団や人間関係 →仲間意識 | 社会や自然 →価値付け |
|-----------------------|-------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 6年生 アイデンティティの芽生え | L I F E ・ M y L I F E | 和！！縁JOY | 校庭キャンプde発見 |
| 5年生 自分との対話 | L I F E | 15min 5年生がやてきた | ほたる池復活 プロジェクト |
| 4年生 個々の存在の尊重 | すきをSWITCH ～友だちの好きに挑戦～ | 喜・努・愛・楽 ～自分も、みんなも 大切に～ | 平野ロハスフェスタ ～大阪の未来を 考える～ |
| 3年生 自分と他者との関係 | すきすきプロジェクト | 音楽を通して、自分 たちの気持ちをそう ぞうしよう。 | 平野EXPO 平野の歴史と進歩 ～令和から平和へ～ |
| 2年生 他者意識の芽生え | すきすき探偵団S | カモシレナイ探偵団KS | ドキドキ探偵団D |
| 1年生 自立・自己肯定の 基礎 | だいすきじぶん ～「すき すき」 あつめよう～ | だいすき なかま ～あこがれの ヒーロー～ | だいすきしぜん ～しぜん ふしぎ はっけん～ |

友だちタイム
(異年齢集団)

(2) 「主体的実践力」 「協働的実践力」 「そぞう的実践力」の**評価の確立**

評価

...一人ひとりの資質・能力向上に向けてするもの

自己評価

ポートフォリオ



学習者

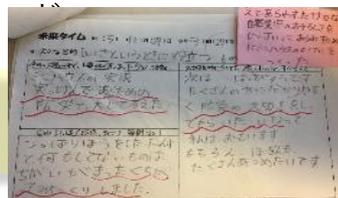
地域住民
(ゲストティーチャー)

保護者

児童

指導者

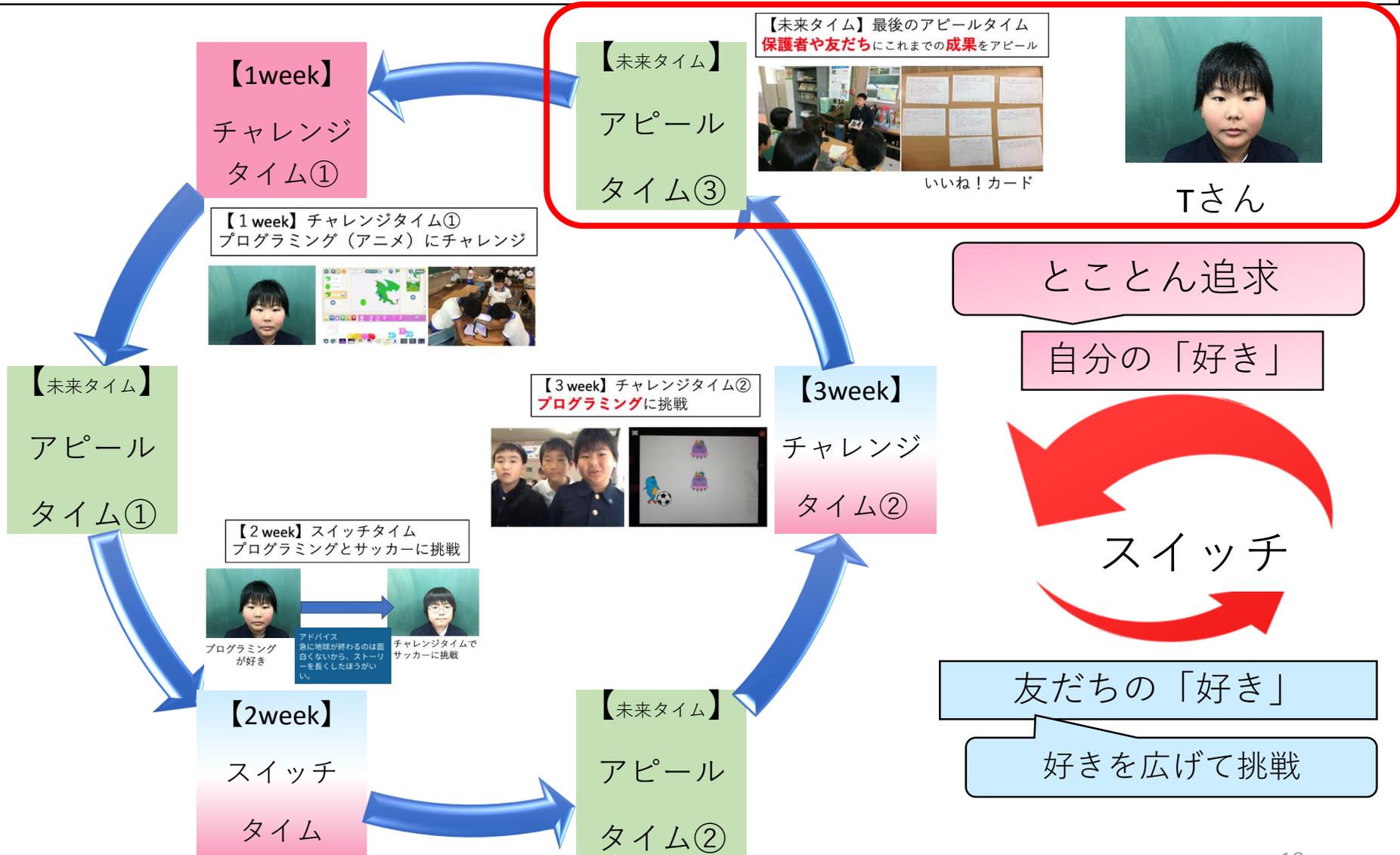
未来タイムカー



未来タイム

対話型評価

未来そうぞう科 4年生 A領域「好きをスイッチ」 (H30年 実践)



アピール 

① そうぞう的実践力を見とる評価の観点

評価の観点

教師と子どもと共有

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----|-----|----|----------|----|-----|----|----|-----|------|----|-----------|----|----------------|--------------|------|
| 指導者の 観点 | 没頭 | | | 協力 | | 見通す | | | 整理 | | | 発信 | | レジリエンス | | |
| 児童の観 点 | 楽しむ | | | 助け 合う | | 見通す | | | つなぐ | | | 人に 伝える | | しなやかな 強さをもつ | | |
| 視点 | 時間 | 触れる | 姿勢 | 役割分担 | 交流 | 過去 | 現在 | 未来 | 比較 | 関連付け | 分類 | 相手意識 | 発信 | 改善 | 価値付け 意味付け | やりぬく |

| | | | |
|------------|--------|---------|-----------|
| 指導者の 観点 | ①イメージ力 | ②クリエイトカ | ③レジリエンス |
| 児童の 観点 | ①考えてみる | ②やってみる | ③最後までやりぬく |

※レジリエンス（しなやかな強さ）…どんな課題や困難にぶつかっても、改善を加えながら最後までやりぬき、過程や結果に意味や価値を見出し、最後までやりぬくこと。

未来そうぞう科 6年生 C領域 「校庭キャンプde発見」
(R1年 実践)



(3) 教科そらぞうにおける「既存の教科」 (H28～H30)

教科

○3つの実践力を9つの力に細分化
 ▲未来×教科として、授業提案できていない
 ▲9つの力のうち、教科によって定義が異なる
 (例:洞察力, 発想力, 表現力)

○各教科の特性(強み)いかして, 3つの実践力へアプローチ
 ▲教科が3つの実践力を育成できるなら, 未来そらぞう科はいらぬ。教科目線の考え。

○教科横断的な学習にアプローチ (理科, 社会科, 家庭科)
 ▲教科においても, 未来そらぞう科の資質・能力の育成を目指す。

各教科がそらぞうの実践力を発揮している姿を想定

第1年次：3つの資質・能力→9つの力

| | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 音楽 | 図工 | 家庭科 | 体育 | 道徳 | 外国語 |
|--------|------------|----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|
| 主体的実践力 | 現状把握力 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 論理的思考力 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | 持続的行動力 | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ |
| 協働的実践力 | 洞察力 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | |
| | コミュニケーション力 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | ○ |
| | 適応力 | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ |
| 創造的実践力 | 発想力 | | | | | ○ | ○ | | | |
| | 表現力 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ |
| | 活用能力 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 創造性 | | | | | | | | | ○ | |

第3年次：3つの視点でアプローチ

アプローチ① 資質・能力



アプローチ② イメージ・クリエイト



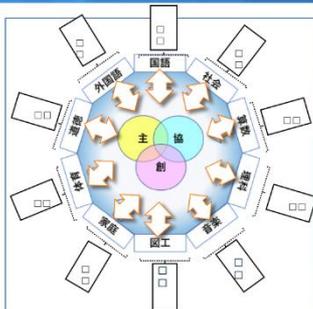
第2年次：教科の特性

各教科・領域における「未来そらぞう」と「未来そらぞう科」とのつながり

第2年次

各教科・領域の特性を活かすからこそ育むことのできる部分へアプローチ

各教科・領域でも育んでいくよさ



アプローチ③ 教科横断的な学習

公開授業③ 第4学年 理科×社会科×未来そらぞう科



令和元年度 各教科の研究の概要

教科

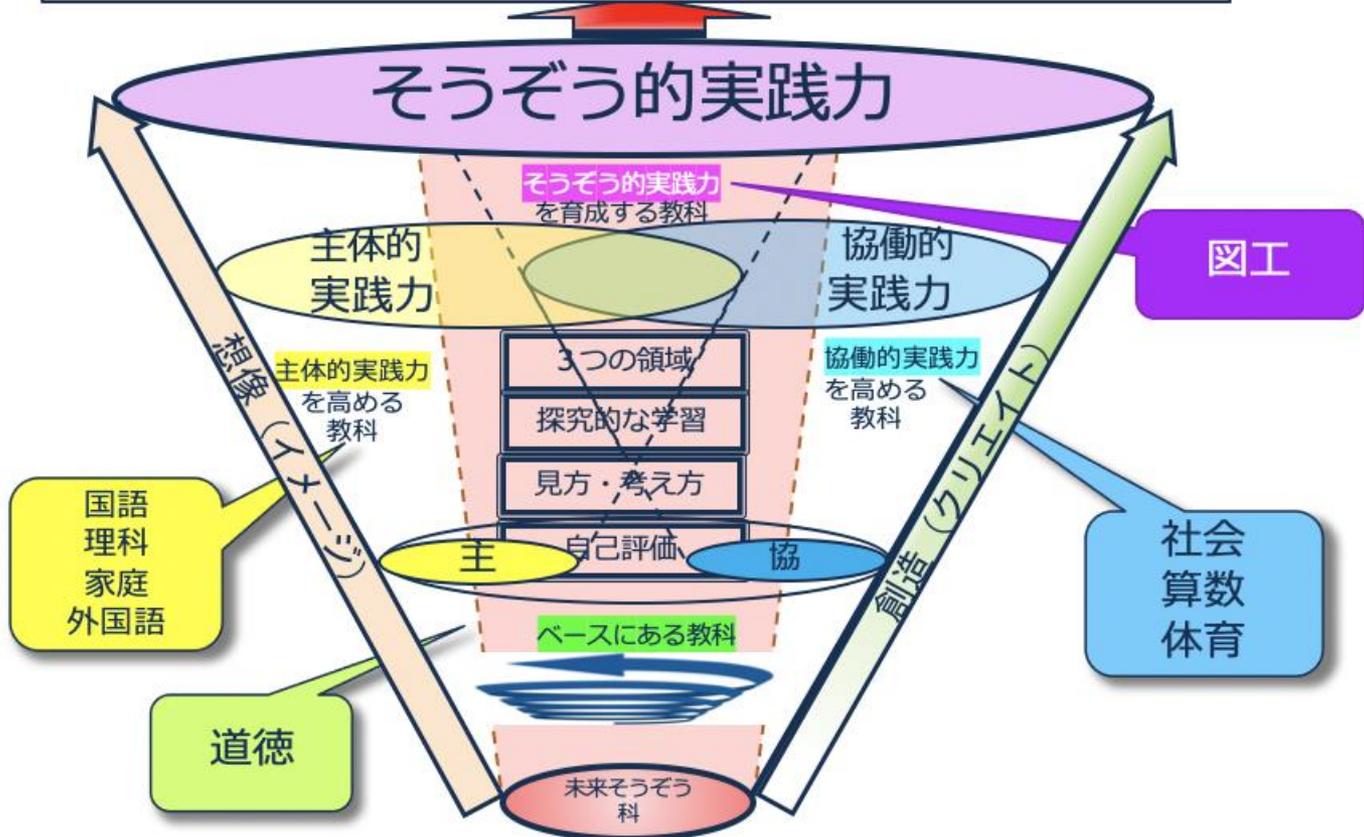
○ 3つの実践力を9つの力に細分化
 ▲ 未来×教科として、授業提案できていない
 ▲ 9つの力のうち、教科によって定義が異なる
 (例:洞察力, 発想力, 表現力)

○ 各教科の特性(強み)いかして、3つの実践力へアプローチ
 ▲ 教科が3つの実践力を育成できるなら、未来そうぞう科はいらない。教科目線の考え。

○ 教科横断的な学習にアプローチ (理科, 社会科, 家庭科)
 ▲ 教科においても、未来そうぞう科の資質・能力の育成を目指す。

・ 各教科がそうぞう的实践力を発揮している姿を想定

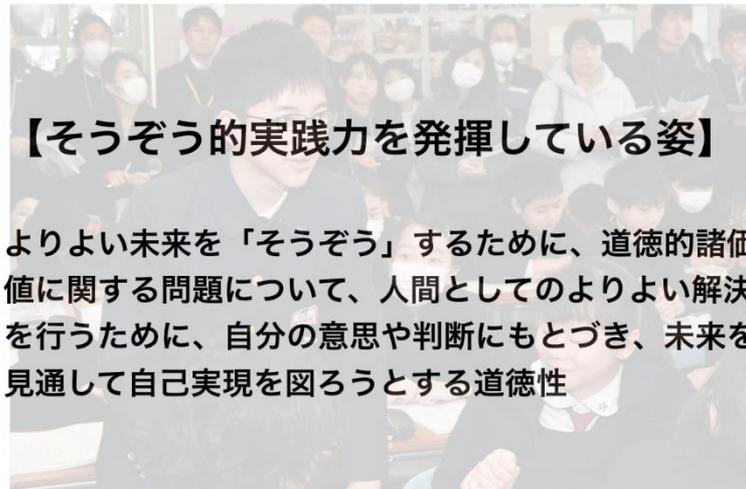
未来をそうぞうする子ども



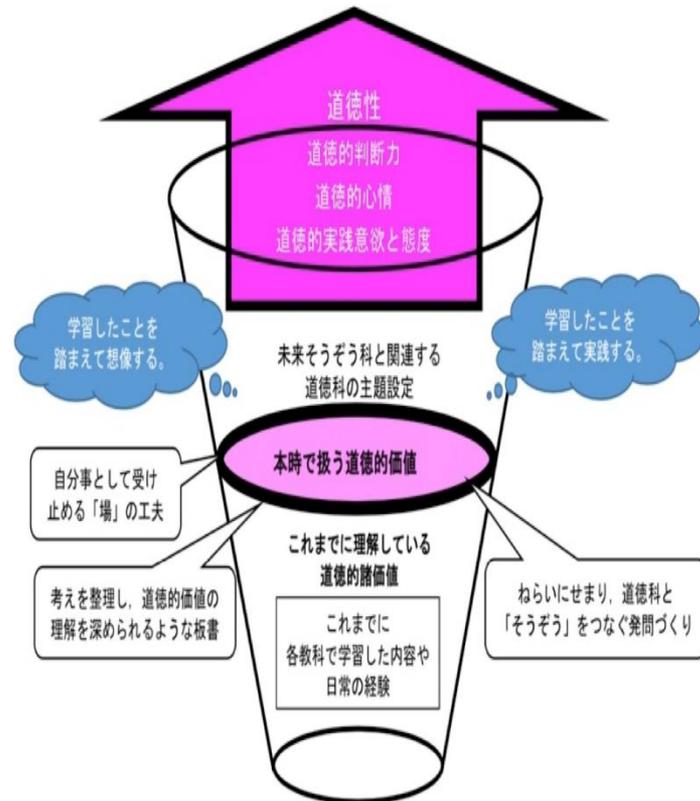
道徳科論

よりよい未来を「そうぞう」するために、自己の生き方についての考えを深める子ども

問題を自分ごととして捉えて、未来への見通しを持つ道徳科の授業



よりよい未来を「そうぞう」するために、自己の生き方についての考えを深める子ども



理科論

豊かな自然観に基づき、
未来をそぞうする子ども

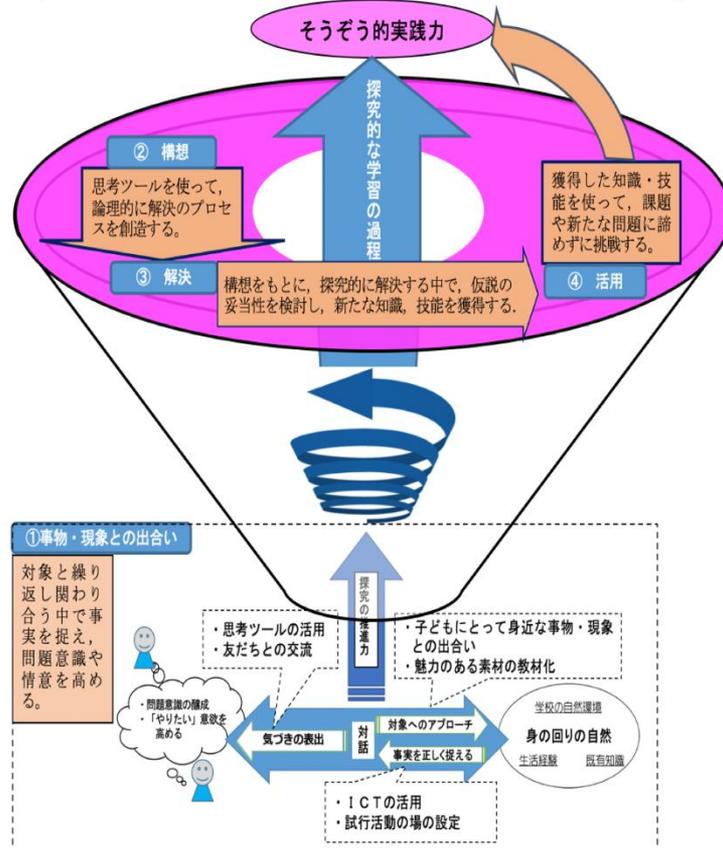
未知なことに挑戦する探究型の授業

【そぞう的実践力を発揮している姿】

未知なものに対して、これまで獲得してきた知識や技能を活用したり、新たな知識を用いたりして諦めずに挑戦する姿

実生活や社会に生かそうとしたり、事象をとらえ直そうとしたりする姿

豊かな自然観に基づき、未来をそぞうする子ども

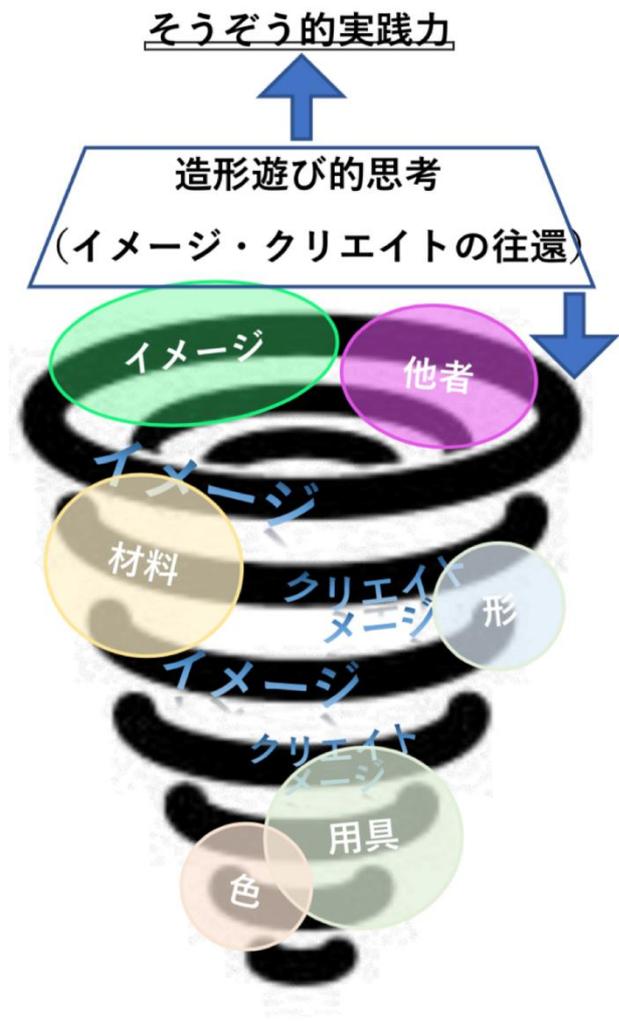
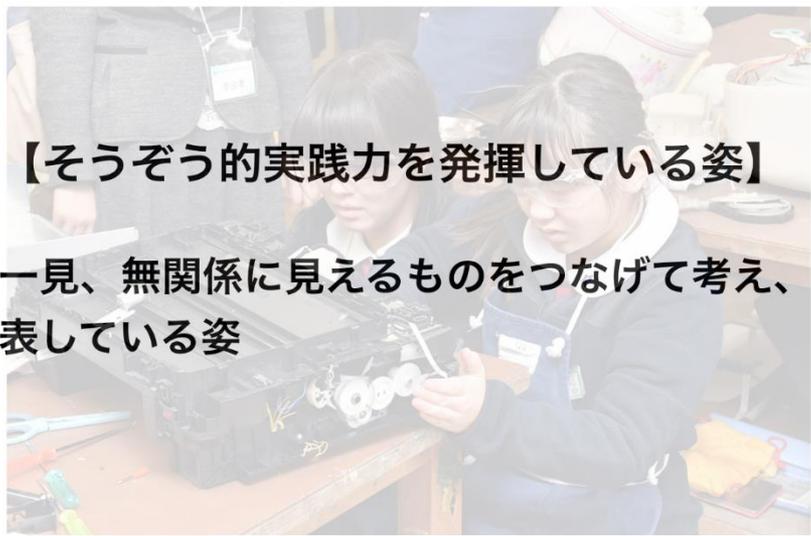


主にそうぞう的实践力を高める教科例

図画工作科論

新たな意味や価値を
つくり出そうとする子ども

造形遊び的思考を通して
そうぞう的实践力を育む



研究開発の成果

心理尺度による効果測定
卒業生の変容

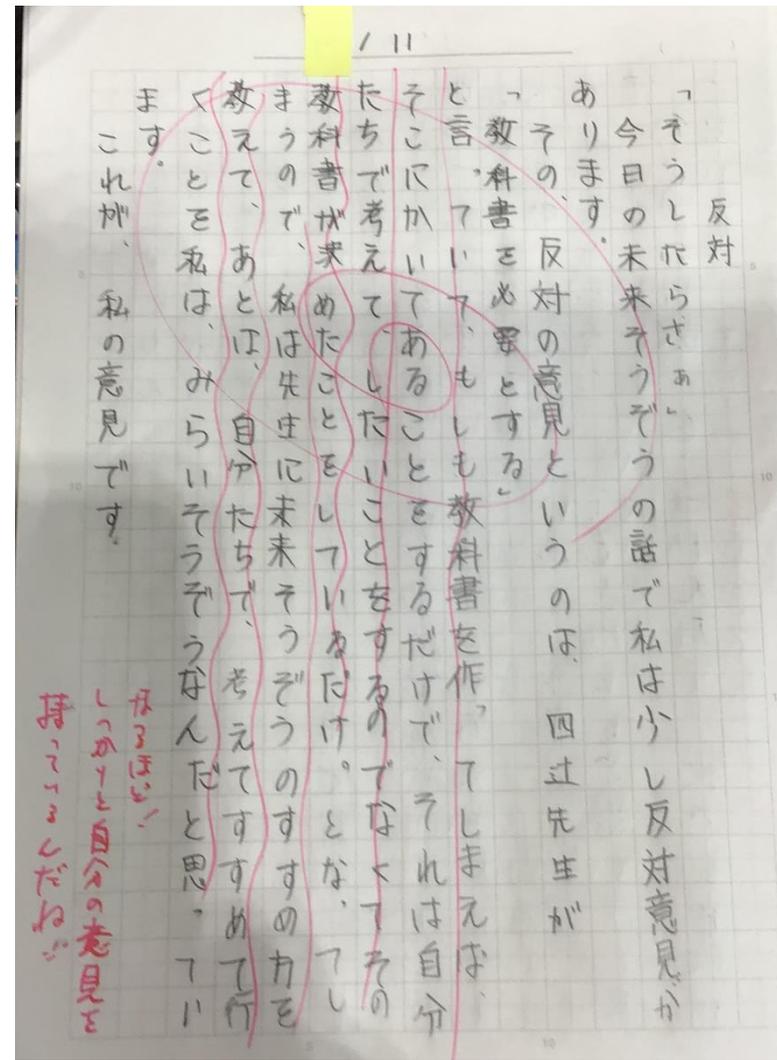
保護者への効果

研究開発
実施の効果

外部からの評価

本校教員によるの効果

卒業生の変容



Nさん 当時6年時の自由ノート（日記帳）

- ・卒業生の成長を感じる。
- ・新教科「未来そうぞう科」は子どもたちにとって価値ある教科である。
- ・附属中学校の総合的な学習（JOIN）ともつながっている。

保護者の声



実施上の問題点と今後の課題

教育課程について

- ① 「未来を『そうぞう』をする子ども」に必要なとなる
「そうぞう的实践力」への焦点化
- ② 「**そうぞう的实践力**」と**新学習指導要領**における
資質・能力との関係性について
- ③ 新教科「未来そうぞう科」を核とした
カリキュラム・マネジメントの必要性

指導方法等

- ① **学びのプロセス**の明確化
- ② **自己評価力**を高める新教科「未来そうぞう科」の評価

教育研究研究会のお知らせ

令和元年度 大阪教育大学附属平野小学校 教育研究発表会

研究主題：**未来をそうぞうする子ども**（第4年次）

—文部科学省研究開発学校指定 第4年次—

ひとりで考え

知的好奇心に基づく主体性

ひとと考え

支えあう協調性

最後までやりぬく子

自己実現に向かう創造性

- 講師 木原俊行先生（大阪教育大学） 金光靖樹先生（大阪教育大学） 佐藤真先生（関西学院大学）
豊田充崇先生（和歌山大学） 峯明秀（大阪教育大学）

2020年2月7日（金）・8日（土）

新教科「未来そうぞう科」をはじめ、全教科等の授業公開と協議会、対話型のブース・ポスター発表、シンポジウム などをを行います。

ご参会・ご指導をよろしくお願いいたします。



ご静聴ありがとうございました。

